

研究代表者 白阪 琢磨 (国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

研究協力者 山崎 厚司 (公益財団法人エイズ予防財団)
辻 宏幸 (公益財団法人エイズ予防財団、
国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

研究要旨 令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人16.2%で、341人37.1%が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人27.8%であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を図るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発する。
啓発の実践として、FM放送を利用しスポットCMを行った。また、高校生世代向け教材の開発として、HIV/エイズに特化したオンライン学習システム開発の検討を行った。

研究目的

令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人16.2%で、341人37.1%が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人27.8%であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を計るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発し、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(平成30年1月18日)に記された「感染に関する正しい知識を普及できるように、学校教育及び社会教育との連携を強化して、対象者に応じた効果的な教育資材の開発等により、具体的な普及啓発活動を支援するように努める」に資することを目的とした。

研究方法

1) 高校生世代に向けた啓発の実践

FM放送を利用し、若年リスナーの多い時間帯にスポットCMとしてHIV/エイズに関する基礎知識や検査情報、啓発メッセージを放送する。

また、HIV感染予防等に関する啓発動画を作成し、YouTubeにて配信する。

2) 高校生世代向け教材の開発

これまであったような冊子の副教材ではなくオンライン学習システムとするため、eラーニングシステムの構築を行う。また、学習指導要領、教科書、教職員のための指導の手引等資料の記載内容の確認を行う。保健体育科教諭、養護教諭等にアンケート調査を行うなど、協力を仰ぐ。

(倫理面への配慮)

啓発の実施にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮する。

研究結果

1) 高校生世代に向けた啓発の実践

大阪府を放送対象地域とするFM802を利用し、以下の通り啓発を行った。

①スポットCM放送

種類：20秒CM×4タイプ

放送期間：5月25日～6月7日(HIV検査普及週間)

放送本数：25回

内容：

(1)「自分自身のために検査に」

6月1日から7日まではHIV検査普及週間です。HIVの検査は全国の保健所で、無料で受けられます。名前を告げる必要もありません。あなた自身のため、そして大切な人のために、検査は大切です。エイズ予防財団は、HIV/エイズの啓発を推進しています。

(2) 「エイズは不治の病ではない、だから検査に」
エイズって聞いて何を思いますか？エイズは今や不治の病ではありません。HIV ウィルスに感染しても、適切な治療で、これまでと変わらぬ生活を送ることができます。感染は検査でしか分かりません。6月1日から7日まではHIV検査普及週間です。エイズ予防財団

(3) 「HIV/エイズは他人事ではない だから検査に」
最近すっかり聞かなくなったHIV/エイズですが、日本でも、去年は、およそ1000人の感染報告がありました。HIV/エイズは誰もが関係のある感染症です。HIVの検査は全国の保健所で受けることができます。エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています

(4) 「男女かけあいバージョン」

男：6月1日から7日まで、HIV検査普及週間って聞いたけど、どうやって検査するの？

女：HIV検査は、全国の保健所で、ただで受けられるみたいよ。

男：へえ、そうなんだ。知らなかった！

女：検索したら、すぐにわかるから、チェックしよう！

男女：HIV・エイズについて興味を持とう。

エイズ予防財団

②生CM

放送回数：80秒×1回

放送日：5月31日（火）8時10分頃

番組：TACTY IN THE MORNING、DJ:大抜卓人

内容：ここで、エイズ予防財団からのお知らせです。

明日6月1日から7日までは、「HIV検査普及週間」です。「最近HIVやエイズという言葉、聞かなくなったな」と思われる方もいるかもしれませんが、日本でも去年は、およそ1000人の感染報告があり、世界に目を向けると、年間でおよそ150万人が新たにHIVに感染したと推計されています。このように今なお、HIV/エイズは他人事ではない感染症です。

ただ、恐れる必要はありません。医療の進歩により、HIVに感染していても適切な治療で、健康な状態で生活を続けることができ、エイズ・HIVにおいて死に至ることは大きく減少したと言われています。

HIVに感染したかどうかを知るためには、検査を受けないとわかりません。「検査ってどう受けるの？」と思わるかもしれませんが、関西各地の保健所や施設で、無料匿名で受ける事ができます。検査も簡単で、少量の血液を採取して、結果を待つだけです。

今週末には心齋橋で、臨時HIV検査も実施さ

れます。日時は6月4日（土）17時から18時30分で、場所は長堀橋駅徒歩1分の、大阪検査相談・啓発・支援センター chotCAST（チョットキャスト）となります。検査結果は採血後、およそ1時間30分でわかります。その他にも、各施設で検査を実施していますので、気になる方は「HIV検査相談マップ」と検索してみてください。この機会にHIV、エイズについて考えて、行動してみませんか？

以上、エイズ予防財団からのお知らせでした。

2) 高校生世代向け教材の開発

研究期間終了後の運用に備えるため採用した、日本製オープンソースのeラーニングシステム iroha Board について、デザインや運用方法などについて検討を進めた。具体的には、ランディングページ（サイトの説明、使用法等）の作成、ID、パスワードの付与等について検討した。

エイズ予防財団作成パンフレット「HIV/エイズの基礎知識」を基に、オンライン学習コンテンツの制作にとりかかった。

考 察

メディアを利用した啓発の実施による効果を直接的に測ることは難しい。放送期間中、大阪検査相談・啓発・支援センター chotCastで行った臨時HIV検査受検者へのアンケートに、受検理由として「ラジオを聞いて」と回答した者があり、行動を促す一定の効果があつたと考えられる。広報活動と検査機会提供の連携が重要であると考えられる。

エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられる。

結 論

メディアを利用した広報と保健所等における検査機会提供の、よりいっそうの連携が必要である。

HIV・エイズに関する情報に触れる機会は少なく、エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられ、適切な教材の開発と啓発の継続が必要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし